



# 情報通信エンジニアリング協会 東日本研修センターの出向を終えて

日本コムシス株式会社 NTT事業本部  
ネットワークシステム部 ネットワークテクニカルセンタ 長尾 潤一

## 【はじめに】

平成23年2月より東日本研修センター ネットワーク部門のインストラクタとして出向し、早いもので、この2月末をもって2年1カ月の任期を無事終了する事ができました。インストラクタとなった当初は、自分が人に教える事ができるのか非常に不安だったことを今でも思い出しますが、日本コムシスでの業務経験を基に協会の先輩方の指導をいただきながら、なんとかインストラクタ業務を最後までやり遂げる事ができました。

## 【研修センターでの業務】

### 1. インストラクタ業務

インストラクタとしては主に新入社員向けの「基礎訓練 (TCP/IP)」やCCNA資格取得を目指す方に向けた「ルータ設定基礎訓練科」等のIP系訓練を担当させていただきま

した。中でも基礎訓練では約40名のクラスを担当し、訓練生個々のレベルを把握しながら適切な指導を行うのが、非常に難しく感じました。また、平成23年度より開始した所内系の「危険体感安全訓練」では、訓練生の方に実際に体感していただく訓練内容、実習の進め方、説明方法についてネットワーク部門の皆様と協力し、どうしたら分かりやすい訓練になるかささまざまな意見を出し合い、パネル作成やビデオの使用等の工夫を行いました。

受講生の方から「日常業務では経験することのない事象を体験でき、安全意識の高揚につながった。」「分かりやすい説明で非常に有意義だった。」等の意見をいただきうれしく思いました。インストラクタとして講義を経験することにより訓練生の理解度や授業の流れ全体が見渡せるようになり、徐々に自分なりの

講義、実習を行う事ができるようになりました。一方で、説明していることがなかなか受講生に伝わらず、人に教える事、指導する事の難しさも学ぶことができました。

### 2. 担任意務

担任意務としては受講生の人数確認から教科書、教材、教室の準備、講師の事前確認や委託会社との調整等があり、訓練科班や訓練期間にかかわらず業務の内容はほぼ同じです。ネットワーク部門の訓練科班数は平成22年度に対し23年度は約1.5倍、24年度は約2倍となりました。主たる要因はIT系訓練の増加ですが、この結果、担任として両年度ともに30科班以上を受けもつことになり、訓練を効率的に運用する必要にせまられました。そのためには通信建設工事と同様に事前準備や事前確認、関係部門との調整が重要であることを理解しました。

### 3. 分科会業務

分科会活動の事務局として無線分科会を担当させていただき、LTEサービス等、近年、進歩が著しい無線技術の現状と工事について触れる事ができました。また活動の中で訓練カリキュラムや教科書、説明資料の見直しを各社委員や講師の方と一緒に検討させていただき、出向前には得る事のできなかつた無線技術の知識や説明資料の作成等を通じた資料作成のノウハウを学ぶ事ができました。



インターンシップでのルータ設定実習



静電気計測体感訓練



高校生施設見学

#### 4. 公益目的研修

インターンシップ研修や高校生を対象とした見学会、総務省様視察研修など通建業界以外の方に対する公益的な訓練も担当させていただきました。一般の人にも身近な機材や事例を用いることにより通信を理解し、そして興味をもってもらえるように工夫を凝らしました。参加した学生の方より「ルータ設定が面白いです。資格試験にも興味が出ました。」との声が励みになりました。

#### 【心に残った事】

この出向期間を通じて心に残った事は、1つひとつの訓練が、実にたくさんの方々の努力と協力で成り立っているという事です。通建会社の講師の方が多忙にもかかわらず業

務の合間をぬって資料を作成し、勉強されている姿を何度も拝見しました。受講生のために訓練の内容を充実させ、少しでも有意義な講義を行いたいという気持ちが伝わり、私自身もっと勉強し頑張らなければと、気持ちが引き締まりました。

また東日本研修センターでは、会社・部門・地域・業務などが異なるさまざまな受講生や私と同じように通建会社から出向しているインストラクタの方々から、他キャリア・官公庁・民間・所外工事等について、貴重な話を聞かせていただきました。出向前はNTTグループの所内系業務に従事しておりましたが、自社にいたままでは得られない豊富な話題に触れることができました。多様な人とのコミュニケーションの重

要性に気づくことができ、私にとって大きな財産となりました。

#### 【最後に】

情報通信エンジニアリング協会では、講師経験や技術知識の習得にとどまらず、NTT様をはじめ、各通建会社、メーカー等との交流を通じて人との繋がりを作ることができました。最後になりますがこのような機会を与えていただいた東日本研修センターのセンター長を始め、ネットワーク部門、アクセス部門、企画部門の皆様にご心より感謝し、厚く御礼申し上げます。今回、東日本研修センターでの出向期間中に得た経験を施工、安全品質の向上、人材育成などの自社業務において活かしていきたいと思っております。

